

1. 部門目標

地域小児科センター、地域周産期母子医療センターの外科部門として、小児科医・新生児科医とチームを組み、地域で求められている小児外科医療を提供する。

標準的で安全かつ丁寧な手術を行う。

日本小児外科学会認定施設（教育関連施設）として、次世代の小児外科医を育成する。

2. 業務体制・スタッフ

①業務体制

予約外来を月曜午後、火曜午前、金曜午前に行っている。緊急や臨時の診療依頼には常時応需し、時間外の救急診療にも小児科・新生児科と協力して可能な限り対応している。

定時手術は木曜日に行っている。緊急手術は麻酔科、外科と協力して対応している。

②スタッフ

令和4年度は、前年度と同じく光永が常勤医として診療を行い、非常勤医として齋藤医師が、月曜午後の外来を担当した。千葉大学医学部附属病院から非常勤医を派遣いただき、定時手術の助手を務めてもらった。

名前	千葉市立海浜病院	日本小児外科学会
光永哲也	統括部長	専門医・指導医
齋藤江里子	非常勤	専門医
瀧口翔太	非常勤	研修医

3. 業務実績

	外来患者数	入院患者数	手術件数
令和元年度	999	70	68
令和2年度	851	50	45
令和3年度	1151	108	111
令和4年度	1057	86	87
令和5年度	1238	97	111

4. 1年間の総括

新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴って小児の活動範囲が広がり、また医療機関を受診する小児患者数が増えたためか、外来患者数、入院患者数、手術件数ともに増加した。日本小児外科学会の認定施設（教育関連施設 B）として、専門研修医の指導ができた。

5. 今後の目標

千葉医療圏において求められる小児外科医療に応需できるよう、診療内容の一層の充実を図りたい。また学会活動や研修を通して積極的に情報を収集し、世界標準の治療が安全に行えるように研鑽を積みたい。引き続き小児外科を志す研修医に、良い研修の場を提供して良医を育成したい。

令和 5 年度 学会・紙上発表の実績

急性腹症の鑑別診断としてのエルシニア感染症の臨床像

第 60 回日本小児外科学会学術集会

光永哲也、杉田恵美、金澤正樹

乳児慢性下痢症の診断における消化管内視鏡検査の適応と有用性

第 47 回千葉大学大学院小児外科講座例会

光永哲也